

## モノ作りを支える機械と技術特集 の発刊に際して

工作機械事業部長

渡 部 健

Ken Watabe



三菱重工は、工業立国の一翼を担う総合製造業として、火力・原子力の発電分野、船舶・航空機・交通システムの輸送分野、環境装置・文化レジャー施設の環境・社会分野のほか、製鉄機械、成形機械、工作機械、印刷機械など産業基盤分野で世界のモノ作りを支える機械を提供してきました。

90年代以降、我が国のGDP成長率は低迷を続け、しかもGDPに占める製造業の構成比率が下降傾向にあります。しかし、国力の維持発展には、生活水準の向上に繋がる価値創造を可能にする技術革新と、世界が求める製品とサービスの創出が必要であり、その国際競争力を高めていかねばなりません。それには品質とコストを支える製造業の発展が不可欠です。

現在当社では“卓抜した技術でお客様の信頼に応え、世界中の人々の安全で豊かな生活に貢献し、発展する企業”をビジョンとして活動を続けております。本号は“モノ作りを支える機械と技術”と題する特集とし、このビジョンの実現を支える三菱重工のモノ作りの中でも産業基盤分野を取り上げました。機械加工・溶接・印刷・組立、いずれも、モノ作りの為に必要な機械あるいはシステムです。三菱重工の中で鍛えられ技術を磨いたものであり、お客様の事業発展のお役に立てることを喜びとしています。

モノ作りを支える機械の代表の一つであります工作機械では、“未来と語る 三菱重工の工作機械”を合言葉に、自らの工作機械ユーザーとして培ったモノ作り技術と経験を活かし、高精度・高能率の追求と使い易さ・環境にも配慮した、お客様の視点に立っての製品の提供に努めております。

本号ではその一端をご紹介しますが、ねじ状砥石を用いた創成研削方式の“静粛・コンパクト・低コスト歯車を実現する歯車研削盤ZE15A”は、歯車を熱処理後に高精度・高能率に加工したいという、自動車の静粛化を進めるお客様のニーズに応えるものです。また、モノ作りに欠かせないツールである金型の製作に

最適な機械として開発した、安定した高精度加工が可能で小形精密金型用の“立形マシニングセンタDCV50”，リーズナブルな価格でありながら高速・高精度で、10 tonを越える大型金型加工用の“高速・高精度金型加工機MVR-FM”，自動車生産のような量産システムの新しい流れである製造モデルの変化や急増急減への対応を可能にした製造システムであり、かつ、高速・高信頼性・低価格のニーズに応える“変種・変量生産対応フレキシブル生産システム”をご紹介します。

印刷機械は、昨年5月にドイツ・デュッセルドルフで開かれた世界最大の印刷機材展“drupa 2004”へ、“contributions for your success (成功への貢献)”をテーマに、当社最新の製版・印刷技術を適用した製版装置(RPS)やバリエアブルオフセット輪転印刷機のプロトタイプモデルなど4機種を出展し、先進の技術力に裏付けられた当社の印刷機械製品のすぐれた性能と技術をアピールしました。

本号では、画像を繰り返して書き込み・消去してコスト低減と環境負荷低減に貢献する“新製版システム”と、スキルレス化と生産性向上に貢献する“印刷用紙全面計測による印刷色調管理システム”の2製品をご紹介します。

溶接分野では自動車ボディ等の複雑三次元形状を対象に低歪・高能率・施工容易と言うニーズに応える“同軸レーザ加工ヘッド”，航空機組立のモノ作りを支える技術として“画期的混合生産方式を導入した航空機ドアセンターの構築”をご紹介します。

日本の、世界のモノ作りを支える当社の機械と技術は、総合機械メーカーの総合技術力に支えられた機械と技術であります。今後とも使い易さ・精度はもちろん生産性・信頼性など数々のお客様のニーズにマッチした幅広い製品を揃えて参りたいと存じます。

ご指導、ご鞭撻宜しくお願い申し上げます。